

幕張ベイタウン・コア

Chiba-city Chiba 2002

< 住民参加型の施設づくり >

< 地域魅力施設としての公共建築 >

敷地：千葉県千葉市美浜区打瀬2-13

発注：千葉県企業庁

設計：2000.3～2000.11

工期：2001.3～2002.3

敷地面積：4,268.10㎡

建築面積：1,773.22㎡

延床面積：2,080.80㎡

新建築：2002年5月号掲載

近代建築：2002年5月号掲載

日経アーキテクチャ：2002年掲載

2002 千葉市建築景観賞受賞

2002 千葉県建築文化賞受賞

2006 第10回公共建築賞受賞

街の目抜き通りであるプロムナードの街並みとの連続性に配慮しつつ、公共施設としてのアイデンティティを創出するようにした。

隣接する公園側ではその緑の広がりや当施設の中庭にそのまま導き入れるようにした。ベイタウン・コア敷地と公園をあわせて一つの街区を形成することが試みられている。

この中庭を介してお互いに活動する様子が垣間見えるような開放的な空間としている。立体的、動的な視線の交錯が生み出す都市的な風景をこのコアの中につくり出すことを意図している。

またコアにはラウンジやテラスのように自由に使える場所が内部、外部を問わず多く用意されている。すべての場所でお互いを見たり見られたりする関係が生まれる。どこでも思いがけずステージになったり観客席になったりする。こういった場所から何か新しい関係やアクティビティが生まれ出されていくことを期待している。



南側前景 手前のコミュニティセンターガーデンの広がりの中庭にそのまま導き入れられる。中央の円型テラスはステージにもなり、それを芝生の観客席が囲む。建物周辺には沿道中庭型の集合住宅でつくられるベイタウン独特の街並みが広がる。



ホールについては「小さくともきらりと光るベイタウン独自の施設」にしたいという住民の声に答えるべく、クラシック専用ホールにも匹敵する良い響きと雰囲気を持ち、同時に拡声装置を使ったときにも十分な性能が出る多目的な空間づくりを目指した。

内装は、白（ケイカル板、PB）と木（シナベニヤ）の2種類のボードの組み合わせで、ケレン味がなく、しかも多少の昂揚感が感じられる雰囲気となっている。



プロムナード側前景 通りから少し引きを取り小さな広場を設けた。左から木製格子、ガラスカーテンウォール、そしてホールの大きなボリュームを並べ、他街区（集合住宅）と対比的な街並みをつくり出している。



図書館内部 図書館は四分の一円の平面形をしている。円弧部分が中庭及び東に隣接する公園に面しているため図書館全体が公園の中にあるような雰囲気となっている。緑豊かな外部環境との一体感が得られるように高く開口部に向かって傾斜のある天井をもつ一室空間とした。